守山フィールドステーション

守山

Field Station MORIYAMA

守山フィールドステーションの活動概要

守山 FS では、望ましい守山市の将来像を求めて研究をしています。

守山市は 3 つの性格の違った地区からなっています。駅前を中心とした市街地と、琵琶湖と、その中間にある農村地帯です。それぞれの地区に適した将来像を得たいと考えていますから、3 つの地点で調査をしています。しかし実際には、それぞれの地点で極めて難しい問題を抱えているのです。

例えば市街地です。ここでは活性化ということが大きな目標になっています。国も市も何とかしてここをもう少し賑やかな所にしたいということで頑張っています。閉じたままになっているシャッターを、何とかして開けるようにしたいなどといって、まちづくり会社などを作って頑張っているのです。しかし、実際に住民に聞いてみると、もうウチは開けたくないなどという家も少なくはないのです。こうなると私などは困るのです。本当はどちらに行くべきなのか？

こんな中で私達の仲間の一人は、とりあえずは市街地の空地にソバを作ってみようということで、ソバを栽培しました。参加してくれる市民などもあって、その人達との接触から本当に進むべき方向を少しでも見出すことができないか。そんなことを考えているのです。

守山フィールドステーションの活動地域

湖地帯にも農村地帯にも、おなじような根本的な問題がひそんでいます。湖だと、湖は誰のものかという問題です。農村だと、日本人は本当に農業を好んでやる人間などいるのだろうか、などといった問題です。私などは、琵琶湖は皆のものだが、今それを守っていてくれるのは漁師だという考えです。だから漁師の人達を少しでも応援したいという思いです。小さいながらも農地を所有していながら、それをよく耕作し得ていない私にとっては、農村と農地の問題は自分自身の切実な問題でもあります。

平成 21 年にはいって、守山市と京都大学生存基盤科学研究ユニットの間で「日本の都市・農村の将来像に関する地域研究」の推進ということで、協力し合うための協定が成立しました。いよいよ、本腰を入れて研究を進めるつもりです。（高谷好一）